

検査に関する説明と同意書

1. ポジトロン断層撮影 (PET) 検査について

この検査は、陽電子 (ポジトロン) を放出する放射性核種 (ポジトロン核種) で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する検査です。

2. 検査の安全性について (お薬)

この検査では、ブドウ糖に類似した放射性薬剤 (18F-FDG: フルオロデオキシグルコース) を静脈注射いたします。当院にて使用する FDG は、日本核医学学会及び日本アイソトープ協会が定めるガイドラインに準拠して院内で当日製造し、品質試験に合格したものです。すでに多くの方がこの検査を受けていらっしゃいますが、これまでに副作用の報告はございません。

3. 検査の危険性について (被ばく)

1回の PET-CT 検査で受ける被曝量は、約 8 mSv (ミリシーベルト) 程度です。このうち放射性薬剤の注射による被曝量は約 4 mSv 程度で、残りは CT 検査による被曝量になります。胃のバリウム検査の約 4 mSv、肺 CT 検査の約 5 mSv に比べると被曝量は多くなりますが、医学的に問題となる可能性は極めて低いと考えられています。参考までに、日本人が 1 年間に自然界から受ける放射線被曝は約 2.4 mSv とされています。

4. 検査の限界について

PET-CT 検査により、無症状のうちのがんを見つけられることがあります。異常が見つからなかったからと言って、がんがお体に存在しないとは言い切れません。一般的に、5 mm 以下の小さながん、消化器の粘膜がん (早期の胃がんや大腸がん)、スキルス胃がんを検出することは困難とされています。また、悪性度の低い (高分化型) 肺がんや肝細胞がん、前立腺がん等の検出率は低いと言われています。

投与した薬剤が尿路へ排泄されることから、腎がんや膀胱がんを正確に診断することも困難です。また、生理的なブドウ糖代謝がもともと高い脳の腫瘍を検出することも困難です。

また、異常が見つかった場合でも、本当にがんがあるのかどうかを調べるため、もしくは、念のためにがんではないことを確認するための、追加の検査が必要になって参ります。

以上のように、PET-CT は決して万能な検査ではないということをご理解下さいますようお願い致します。

5. 個人情報について

得られた検査結果は、医学研究のために、学会等で発表されることがございます。この際、患者さまのお名前等、個人を特定できる情報が公表されることはありません。もし、患者さまご本人の画像を一切公表して欲しくないとお考えの場合には、問診の際にお伺い致しますので、お申し出下さい。

患者さまがご記入下さい。

私は、以上の内容を理解し納得の上で、検査を受けることに同意致します。

平成 年 月 日

本人署名 _____

代理人署名 _____ (続柄) _____